

## WFITN women's observership program とタイ Ramathibodi 病院での研修経験



三重大学 脳神経外科 鈴木有芽

私は World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (WFITN) の women's observership grant を活用し、タイのバンコクにある Ramathibodi 病院で、1 ヶ月間の脳神経血管内治療(Interventional Neurointervention; INR) 研修を受けました。

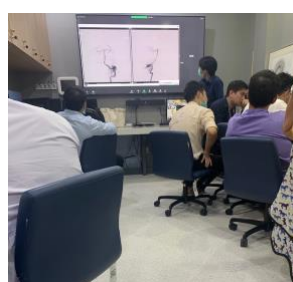
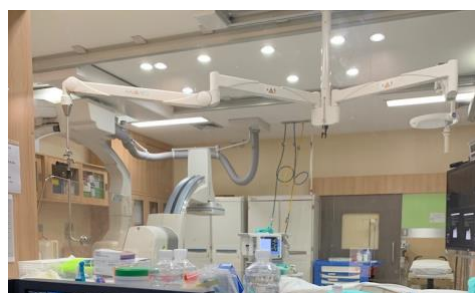
WFITN では、Women in INR として Ronit Agid 先生、Sara Power 先生が中心となり、女性医師が INR の分野において技術や学術的知識の習得および、国際交流の機会を増やすための活動が積極的に行われています。その一つが women's observership grant の公募であり、私がこの grant を知ったきっかけは、2022 年に京都で開催された 16th Congress of WFITN でした。この grant では、専門医習得前後の女性医師を対象に、2-4 週間の海外研修に対し、交通費及び滞在費の補助を行っています。研修先の指定はなく、自分で選択することができます。

研修先をどうするか考えていた時にはじめに思い浮かんだのが Sirintara Pongpech Singhara Na Ayudhaya 先生でした。Sirintara 先生はパリで Pierre Lasjaunias 先生のもと INR を学ばれた後、タイでの第一人者として INR を広め、さらに国際的にも WFITN や AAFITN の president として活躍された先生です。私が Sirintara 先生に初めてお会いしたのはナポリで行われた 15th congress of WFITN の会場で、とてもパワフルな印象でした。女性医師が活躍されている現場で研修したかったこと、動静脈シャント疾患を含め、日本では比較的稀な疾患を経験したかったこと、また学生時代に 1 ヶ月間過ごしたことがある国ということも相まって、Sirintara 先生にコンタクトをとり、Mahidol 大学の附属病院のひとつである Ramathibodi 病院での研修の機会を得ました。

タイでは、INR を行える施設がバンコク市内の数施設に限られるため、症例が集約され、これらの施設はまた、血管内治療医を育成する役割も担っています。Ramathibodi 病院もそれらの施設のひとつであり、1,2 年目のフェローが 3 人ずつ研修していました。研修中は主にフェローと行動をともにし、治療症例の見学 (スクラブインして手伝いもさせていただきました)、外来の見学、病棟回診などを行いました。硬膜動静脈瘻や動静脈奇形などのシャント疾患の患者がやはり多く、日本では使用できない液体塞栓物質や detachable micro catheter などを用いた治療も経験することができました。また、detachable balloon を用いた direct CCF の経動脈塞栓術や、retinoblastoma に対する経眼動脈での化学療法など、初めて経験する治療もありました。治療手技や疾患に対する知識以外にも、INR の医師、看護師、放射線技師を含めたスタッフ間におけるチームワークや、立場を問わず積極的に意見を出し合い、より良い治療に繋げる姿など、学ぶべきことがたくさんありました。また、基本的には同世代のフェロー達と一緒に行動していたの

で、自然に会話も増え、診療上のささいな疑問点を躊躇なく尋ねられたこと、文化や宗教上の習慣、趣味など医療以外についての話をすることができたことも有意義な時間を過ごすことができた要因の一つでした。質問をする度ほぼ必ず'日本 (あなた) の場合はどうか'と聞き返されるので、改めて自国や自施設についても考えるきっかけとなりました。

1ヶ月はあっという間で、もう少し長期間研修したかったというのが本音ではありますが、多くのことを学び、また視野を広げるきっかけとなり、非常に有意義な研修となりました。このような機会を与えてくださった WFITN women's observership 担当の方々、現地での研修を支えてくださった Ramathibodi 病院 INR のスタッフの方々には心から感謝しています。



一部WFITN ホームページより引用